

Title	燃料電池自動車の燃料改質技術開発におけるエクソンモービルの企業戦略への提言
Sub Title	
Author	今村元信(Imamura, Motonobu) 中村洋
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2001
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2001年度経営学 第1663号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002001-1663">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002001-1663</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	中村 研究会	学籍番号	80028107	氏名	今村 元信
(論文題名)					
燃料電池自動車の燃料改質技術開発におけるエクソンモービルの企業戦略への提言					
(内容の要旨)					
<p>本論文は、エクソンモービルの技術開発戦略について燃料電池自動車における燃料改質技術に焦点を当て、そのあるべき姿を提言する。問題意識として、エネルギーシフトに対する国際的機運の高まりやNO<sub>x</sub>や、CO<sub>2</sub>を大幅に抑制したクリーンエネルギー自動車の普及努力に対する社会的必要性が挙げられる。</p> <p>燃料電池自動車では燃料となる水素を何から発生させるかという問題に関し、ガソリンから水素を発生させるガソリン改質方式とメタノールから水素を発生させるメタノール改質方式、水素タンクから直接供給する純水素方式の大きく3種類に分かれ、北米、欧州、日本の自動車メーカー、エネルギー企業がしのぎを削っている。</p> <p>本論文では、①エクソンモービルは燃料改質技術においてガソリン改質技術だけでなく他の技術に対しても投資するよう戦略転換すべきである、②エクソンモービルは燃料改質技術を米国本社集中から欧州、日本などの海外子会社でも同時に技術開発するよう戦略転換すべきである、という二つの提言を行なう。具体的な分析手法として、理論的フレームワーク(5Forces, Value Chain Analysis, COE)、社内および関係会社へのインタビュー(米国および日本国内)、データ分析を基にこれらの提言の妥当性を考える。</p> <p>エクソンモービルは、従来技術開発においては効率性を重視し米国に技術開発部門を集中させて来たが、燃料改質技術開発においてはそれが必ずしも機能的に作用しない。家庭用分散電源などに強みを持つ日本企業や、メタノール改質技術のノウハウを持つ欧州との関係を構築し、それを自社の技術開発に活用すべく海外子会社が積極的にイニシアティブを取る事がエクソンモービルの技術戦略に重要であるからである。また技術開発についても、ガソリン改質技術に技術開発の投資を集中させているが、複数の燃料改質技術に対する投資がエクソンモービルにさらなる価値を付加し、エクソンモービルの経営資源を考慮してもこの戦略が妥当である。インタビューにおいても、海外子会社の積極的な関与が技術者の流出を防ぎ、かつ技術開発を効率良く進める一つの要因になり得る事が明らかになった。</p>					